

「活動報告（平成十一年）」

一、戦史関連研究会

◇戦史研究発表会◇

平成十一年七月二十七日

防衛研究所大講堂

研究発表

「ワシントン会議と加藤友三郎」

戦史部所員

横山 隆介

「琉球分島問題の結末」

戦史部主任研究官

山村 健

「陸軍の防衛招集制度とその実態について」

戦史部所員

河合 正廣

特別講演

「戦後日本の安全保障——日米の政策——」

神戸大学教授

五百旗頭 真

◇安全保障国際シンポジウム◇

「二一世紀の戦争と平和——二〇世紀を振り返って——」

平成十一年十月七・八日

グラントヒル市ケ谷

研究発表

「総力戦へのアプローチ 一八九〇—一九一八年」

ロンドン大学教授

ブライアン・ボンド

「第一次世界大戦の衝撃」

戦史部主任研究官

相澤 淳

「二〇世紀における戦争の効用」

オックスフォード大学教授

ロバート・オニール

「中国から見た二〇世紀の戦争と平和」

北京大学国際関係研究所長

ユアン・ミン

「Post-Heroic Warfare（犠牲者なき戦争）」

戦略・国際問題研究センター（CSIS）主任研究員

エドワード・ルトワック

「二一世紀の戦争形態」

ロシア科学アカデミー米国・カナダ研究所名誉所長

ゲオルギー・アルバートフ

議長

戦史部長 林 吉 永

討論者

防衛大学校教授

戸部良一

上智大学教授

高橋久志

第二研究部主任研究官

石津朋之

平成十一年六月十四日

「戦間期の軍事と外交について」

東京女子大学助教授

黒澤文貴

平成十一年六月二十二日

「ノモンハン事件について」

戦史研究家

阿部武彦

◇各種研究会◇

平成十一年一月二十一日

「明石工作の再検討について」

名城大学助教授

稲葉千晴

平成十一年一月二十五日他

「中国海洋法制度史について」

横浜市立大学教授

布施勉

平成十一年一月二十九日他

「中国方面海軍作戦について」

元戦史部戦史編纂官

市来俊男

平成十一年三月二十四日

「海軍国防思想、主として高橋亀吉を中心にして」

戦史研究家

石川泰志

平成十一年十月十八日

「朝鮮戦争の戦後史から見た第二次朝鮮戦争の可能性」

いすゞ自動車顧問

大越兼行

平成十一年十月二十二日

「英国海軍史」

東京学芸大学名誉教授

青木栄一

平成十一年五月二十日

「戦争と経済の関係」

高千穂商科大学教授

寺谷武明

平成十一年七月二十一日他

「戦間期の日英豪関係について」

玉川大学専任講師

等松春夫

平成十一年九月十四日

「朝鮮戦争開戦五十周年を控えて」

アメリカ太平洋軍司令部史室長

トーマス・F・ゴードン

アメリカ太平洋空軍司令部史室長

ティモシー・R・ケック

平成十一年十一月十九日

「戦史研究方法論序説」

平成十一年十一月二十六日

「戦いの原則について」

平成十一年十二月二日

「沖縄戦の実相 ―大隊長のみた米軍と日本軍―」

戦史研究家 平間 洋一

戦史研究家 片岡 徹也

戦史研究家 小城 正

◇戦史現地研究◇

沖縄地区（沖縄戦の概要・沖縄県立博物館他）

平成十一年十二月七日～十日 戦史部長以下十名参加

二、戦史資料の閲覧

防衛研究所は、旧陸海軍関係の公文書非公文書及びその他戦史関係の出版物並びにそれらの複製物（以下「史資料」という）を、平日九時から十六時三〇分まで、図書館資料閲覧室において一般に公開している。調査研究のため閲覧を希望する者は、所定の手続きをとって誰でも閲覧することができる。

本年（平成十一年）の閲覧者総数は、五、〇〇六名であった。

月別閲覧者数は左表のとおりである。

月	閲覧者数	月	閲覧者数	月	閲覧者数	月	閲覧者数
一	三〇五	七	四七〇	四	四三一	十	三七二
二	三七一	八	五〇三	五	三五四	十一	五一〇
三	四二七	九	四五〇	六	四四二	十二	三七一

三、参考調査

防衛研究所は、図書館史料閲覧室史料専門官、戦史部参考調査担当官を窓口として、史資料の検索、特定史資料の内容に関する情報提供、史資料に関する参考文献及び専門的調査期間等に関する情報提供を行っている。

これらの活動に対しては、国内外から多数の礼状等が寄せられている。
 昨年（平成十一年）の参考調査統計は、左記の通りである。

(一) 要求件数

総件数は、一八七六件であつた。月別件数は左表の通りである。

要求件数	月	要求件数	月	要求件数	月	要求件数	月
一六〇	十	一六三	七	一四五	四	一二一	一
一八四	十一	一八八	八	一七二	五	一四一	二
一二〇	十二	一七四	九	一六〇	六	一四八	三

(二) 要求者の職業

要求件数	職業	要求件数	職業	要求件数	職業	要求件数	職業
一九八	会社員	一九六	報道等	一九二	大学等	二四三	防衛庁
三七五	その他	一三〇	外国人	一五	図書館	一一五	他官庁
		一五	議員	四二	研究家	二一八	旧軍

(三) 外国人

総件数は、一三四件であった。

要求件数	国	要求件数	国	要求件数	国	要求件数	国	要求件数	国	要求件数	国
一	インドネシア	二	南アフリカ	三	カナダ	四	オランダ	八	ドイツ	四二	アメリカ
一	フィリピン	二	ポーランド	三	トルコ	四	中国	六	フランス	二三	イギリス
		一	ソロモン	三	バプアニューギニア	四	イタリア	六	韓国	二一	オーストラリア

(四) 質問内容

要求件数	質問内容	要求件数	質問内容	要求件数	質問内容	要求件数	質問内容	要求件数	質問内容	要求件数	質問内容
〇	戦史叢書	〇	研究開発	一一	教育訓練	七一	軍事施設	一八九	個人歴	四	戦争指導
二九	外国戦史	三七	史料	〇	情報	〇	服装記章	一〇三	制度	一二八	作戦戦闘
九五	その他	三	自衛隊史	一	兵站補給	一〇	教範用語	八一	兵器	二八〇	部隊歴

(五) 陸海軍別

要求件数	陸軍	海軍	共通	その他
	七〇八	四七一	七六	六二一

(六) 要求・回答手段

要求手段	要求件数
電話	九二七
文書	三一三
直接	五八六
FAX	五〇

回答手段	回答件数
電話	八三六
文書	四二一
直接	五六九
FAX	五八

(七) 回答日数

回答日数	件数
即日	一三九一
一日	九七
二日	三九
三日	六四
回答日数	件数
四日	三四
五日	一二
六日	二五
七日	一八
回答日数	件数
十日以上	二四
一五日以内	二五
一月以内	三三
一月以上	二六

四、見学者

平成十一年の当図書館史料庫を見学した主な見学者は、左記のとおりである。

二月十八日

国際教育情報センター一行九名

(バプア・ニューギニア代表三名含)

三月五日

蠟山道雄上智大学教授

三月八日

オーストラリア戦争記念館一行二名

三月十六日

佐々木宏幹駒沢大学教授

三月十七日

鳥取県公文書館長一行三名

六月三日

国際教育情報センター一行七名

(ラオス代表四名含)

七月十五日

上智大学文学部学生一行十一名

九月三十日

玉川大学文学部学生一行十二名

十一月十日

上智大学大学院生一行十名

十二月三日

東京女子大学現代文化学部学生一行十四名

十二月十四日

韓国国史編纂委員会一行二名

十二月十七日

成城大学法学部学生一行十八名

十二月二十二日

拓殖大学政経学部学生一行十名

(河合正廣、長山真一)